

平成 30 年 2 月 24 日

() 内に語句を埋めて下さい。また正しい方を選んで下さい。

【事例1関連】

1. 一般状態・全身状態の把握にもっとも重要な日常検査は()であり、次いでコリンエステラーゼである。
2. 貧血の指標となる検査は、()である。
3. 急性炎症の診断、治療のモニターに頻用される白血球数とC反応性蛋白のうち、変化は(前者・後者)の方が速い。
4. 尿素窒素の増加がクレアチニンの増加に比べて大きい場合、急性腎不全以外に脱水、循環不全、()からの出血、(同化亢進・異化亢進)等を考える。
一方、尿素窒素が低値の場合、(肝・腎)機能低下以外に、小児、多尿等を考える。
5. 肝臓の機能をみる検査として、()、コリンエステラーゼおよび凝固検査である()が重要である。肝細胞の破壊・変性を把握する検査として、ASTおよび()、胆道系の異常をみる検査として、 γ -GTおよび()が重要である。
6. 胆道とは()から十二指腸の Vater 乳頭までを言う。
7. LD(乳酸脱水素酵素)には(5つ・7つ)のアイソザイムが存在する。肝障害では()が上昇し、溶血では()が上昇する。
8. 悪性腫瘍の骨転移の場合、ALPは(骨融解性・骨形成性)の転移で増加する。その理由は、ALPは骨では(造骨細胞・破骨細胞)に含まれるからである。
9. 膠質浸透圧に関与する代表的な物質は()であり、これにより血管内の血漿中の水分の約(6割・8割)が保持されている。
10. 血中のカルシウムは、健常状態では約半分が()と結合し、残りがイオン化カルシウムである。アルカローシスになると、この物質との結合が(増加・減少)する。
11. AST>ALT の場合、肝細胞の壊死・変性以外に、溶血および()細胞の壊死・変性を考える。
12. AST と ALT の血中半減期は、それぞれ概ね(12 時間と 2 日・1日と4日)である。
LD アイソザイムのうち、LD1 の半減期はおおよそ(100 時間・10 時間)、LD5 は(100 時間・10 時間)である。

【事例2関連】

1. PaO₂ と SaO₂ との関係を示した図を()解離曲線と呼ぶ。体温上昇や pH 低下により右方偏位すると、肺ではヘモグロビンと酸素が(結合しやすくなり・結合しにくくなり)、末梢組織では酸素を(離しやすくなる・離しにくくなる)。
2. PaO₂ と PaCO₂ の両方が低下した場合、①シャント、②拡散障害あるいは③()比の不均衡を考える。ショックは(①・②・③)を示し、間質性肺炎は(①・②・③)を示す。なお CO₂ は O₂ に比べ肺胞壁を(2 倍・20 倍・200 倍)拡散しやすい。
3. PaCO₂ (35-45mmHg) 20mmHg の場合、()は増大していると解釈する。
4. 酸塩基平衡異常の診断は、呼吸性因子として()を用い、代謝性因子として()または()を用いる。
5. pHが基準範囲の 7.45 を越えたらアルカローシス、7.35 以下をアシドーシスと言う。これは(正しい・間違いである)。
6. pH 7.4 が 0.2 変化した場合、すなわち 7.2 に減少した場合と 7.6 に増加した場合、H イオン濃度の変化は(前者・後者)の方が大きい。
7. 代謝性アシドーシスと代謝性アルカローシスは同時に起こってもよい。これは(正しい・誤りである)。
8. アニオンギャップは、()の指標となる。
9. Na と Cl の差は、概ね(25・35・45)mmol/L である。
10. 血中 K イオンが増加すると pH は(増加・低下)し、K イオンが低下すると(増加・低下)する。K イオンが高くなると、(頻脈・徐脈)となる。